

希望の黄色いハンカチ

山田洋次さんへのインタビュー(抜粋)

東日本大震災の津波に襲われ、「奇跡の一本松」が残った岩手県陸前高田市。約10歳かき上げられた大地に「黄色いハンカチ」がはためいている。姉と自宅を失い、山田さんの作品を心のよりどころにしてきた菅野啓佑さん(77)が震災の2カ月後に掲げた。菅野さんは7年半の仮設住宅暮らしを終え、昨年末、再建した自宅に移り住んだ。再びハンカチを翻らせ、仲間への帰りを待ち続けている。

「地元の人々が言う『復興』とは、今日と同じ明日が来る『震災前と同じ暮らしを取り戻す』というところまでかかど確かなものでした。『阪神大震災のあった神戸の長田地区で、小さなお稲荷さんが焼けてしまった。復興の掛け声とともに、巨大な耐震のビルがズラズラ建つとき、地元のおばあさんが聞いたそう。』『あのお稲荷さんは、いつどこに建てて下さるのでしようか』と。つまり、市民にとって、復興するというのは、そういうことなんだね。近所の人たちがお稲荷さんの前で朝のあいさつを交わし、昔なじみの豆腐屋で朝の豆腐を買うといった、和やかで平和な暮らしのイメージは、市の計画にはないと思う」

震災後、「物質的な豊かさ」が大事」という価値観が見直された空気を感じたのですが。「地域が破壊され、大都市に人口が集中する。AIの時代が来て、効率化が進む。こういう方向性が、人間にとって本当に幸せなのかね。隣近所が仲良く、しよゆゆやみそを貸し借りして、古いなじみの豆腐屋や八百屋で買い物をする暮らしの型が消えることが。日本人が明治から大正・昭和にかけて築いてきたライフスタイルを、ブルドーザーで潰すように消してしまっているのか、それで幸せになれるのか、ということ、国をあげて議論しなくてはいいなかったのではないかと思うわけ」

「国も地方創生に力を入れていますが。」

「だったら新幹線の駅も飛行場も、これ以上つくるのをやめた方がいい。高速道路を作るお金を地方の暮らしや文化活動に回せばいいと思う。新しい『町』ができるには、代々のつき合いが必要だ、ということ、詩人の田村隆一さんから聞いたことがある。一つの町で子どもが大きくなって結婚し、孫が生まれる。50年、100年というスタンスのおつき合い。大震災の後、この国の政治はそういうビジョンを持っているのか、ということ、を問われたんじゃないかな」

4月13日(土) 春の教育実践講座

受付: 13:30~
全体会: 14:00~15:30
「学級づくり・子ども理解」
弘前大学教育学部 宮崎充治氏
分科会(保健室)
15:50~18:00

話題提供者: 岩手県久慈小学校 佐々木ひとみ先生
テーマ 「子どものための性教育と創造性」
学び合おう! 参加をお待ちしています



青森県教組養護教員部 2019.3.15.

お元気で

卒業式の練習が始まる頃に聞こえてくる白鳥の声。鳴き交しながら北へ旅立っています。見上げるとV字のシルエット。無事にたどり着きますよ

折々ことば

鷺田 清一 1396

人間には 行方不明の時間が必要です
「うたたねにしろ／瞑想にしろ／不埒なことをいたすにしろ」人には「ふっと自分の存在を掻き消す時間」が必要と詩人はいう。「日々アリアバイを作るいわれもないのに」携帯電話は鳴る。でも出ない。むしろ時の隙間をこじ開けて二人「ボワン」としていたい。自分を大切に思うのも大事だが、ときに自分に厭きる、自分をチャラにすることも必要だ。詩「行方不明の時間」から。

2019.3.8

ういと祈らずにはいられません。
待ちに待った春がようやくめぐってきました。
1年間お疲れさまでした。4月からの超多忙に備えて、今日はほんのちよっぴり ゆっくりしてください。

たいよう (退職養護教諭)のみなさま

組合員数が減り、県教組の財政が苦しくなっています。退職してから財政を支えてくれる方がいると心強いです。支援して下さる方は直接 県教組へお電話を(017-734-7279)
▶再任用の方(組合員~月額3000円・年36,000円)
▶その他の方
特別組合員(月額1000円 年12,000円~選挙権あり)
協力会員 (年10,000円)

ウツリカキ学習会の案内は心を込めてあります

この冬一番の嬉しい出来事でした。2月半ば、朝起きると入口に除雪された雪がどろどろ。硬くて重くて、「1時間以上かかるなあ」と心の中でぶつくさ言いつつ近くの小さな川に雪捨てに行きました。30分程過ぎた頃、我家の前を通りかかったブルドーザーが、突然残りの雪を向かいの空地に捨て始めたのです。「何て親切な人だろう。どの会社の何という人だろう。何かおれの物が冷蔵庫に入っていないか」などと考えているうちにあという間に終わりました。おれを言おうと近づいたら運転していた男性が窓を開けて「先生、子どもが世話に頼まれて」「あ、〇〇さん、ありがとうございます。半分泣きながらやってたんです。何も差し上げられませんが、おれが見えなくなるまで呆然とそばに立っていました。15年位前の保護者の方でした。」

スマイルスポット 阿部陽子 文責

『キッパリ』

23

いつも車や電車で通り過ぎてしまつ道をも、歩いてみる。

CHECK!



山口に住んで8年になります。

ここでの移動は、ほぼ車です。バス、電車はかなり本数が少ないし、私が住んでいるところから電車の駅までは遠くて歩けない。地下鉄なんていうのも、ありません。そしたら「歩く」ということが、極端に減ってしまいました。車社会の弊害！ 徒歩5分の郵便局に行くにも、無意識に車のキー持っているし。

まあ、要は、心が次第なんです。だから、たまに歩くといろんな発見があるんです。

いつも車で通り過ぎる道も、ゆっくり歩くと近所なのに初めて来た場所のような新発見の連続。看板、季節の花、犬、ネコの小動物。夜限定で、タヌキもいる。ちょっとした旅行気分。

昔から、本道からちよつと入った路地裏のような小道を歩くのが好きでした。家々から聞こえてくる話し声や食器を洗う音、テレビの音などを聞くのが好き。そこで私が全く知らない人たちが生活していると思うと、ほっとするような、それでいてわけもなく切ないような気持ちになるんです。

電車をいつも利用している人も、たまには一駅前で電車を降りて、ちよつとばかり歩いて帰ってはいかが？



ゆっくり歩くと、新発見の連続。



●気持ちから、変えてみる!

ニユス笑ア.07.0

芝罘 ☆ 友衛



上大岡トメ 幻冬舎